



廿日市市教委だより

～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～

令和4年
6月22日
第3号



第2号より右上に掲載している「その背中 子どもたちの 道しるべ」は、昨年度各学校において、教職員としての誇りや自覚の醸成を目的にした研修を実施してもらい、作成してもらった「教職員としての誇りや自覚を意識し続けるためのキャッチフレーズ」の中から、全市的な啓発資料として選ばれたものです。

子どもたちの人格形成に携わるという職責と、子どもたちを教え育てるといふ仕事に対する使命感を、お互いもち続けていきましょう。



毎年6月は「食育月間」

食育は、生きる上での基本であって、知育・徳育・体育の基盤となるものです。学校における食に関する指導は、子どもが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができることを目指し、学校給食を活用しながら、学校の教育活動全体を通じて行われています。

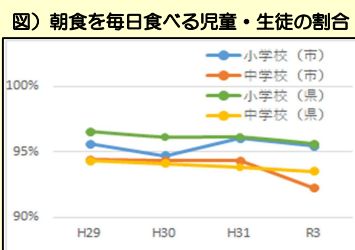
令和4年度の授業風景（食に関する指導）



写真左) 大野東小学校1学年 学級活動「おいしい給食～給食にいろいろな食べ物が使われている理由について考えよう～」
写真右) 宮島小学校1学年 生活科「給食のお手伝いをしよう」

朝食を食べていない児童生徒が増えています！

廿日市市食育推進計画の目標の一つに「**朝食を毎日食べる子どもを増やす**」という項目があります。目標値100%に対し、朝食を毎日食べる児童・生徒の割合は減少傾向にあります。朝食をとることは、栄養補給だけでなく、適切な生活習慣の育成と、心身の健康



の保持につながります。みんなで朝食喫食率の向上を目指しましょう。

資料：児童生徒学習意識等調査(旧「基礎・基本」定着状況調査)結果
※「毎日朝食を食べています」という項目に「よく当てはまる」「やや当てはまる」と回答した児童生徒の割合

正しく理解しよう「起立性調節障害」②

先月号の記事は、起立性調節障害の基本的な理解についてでした。今月号では、診断を受けた児童生徒に対する支援のうち、学校に特に配慮していただきたいことについて4点紹介します。

- 本人への支援や配慮について**保護者とよく連携**してください。保護者の承諾を得て主治医と連携を図り、配慮事項等の説明や指示を受け、その内容を本人及び保護者とも共有して支援に取り組むことが大切です。
- 本人の起床時刻が遅れる場合もよくあることから、**本人への電話連絡や家庭訪問は、体調が改善しやすい午後の時間帯にする**といった配慮が必要です。
- 基本的には運動制限の必要はないと言われていますが、症状はその日の状態により変動が大きいので、本人や保護者とも相談し、**本人の体調に合わせた内容や運動量となるように**しましょう。見学の際は、日陰か室内で座位で行うようにしましょう。また、全ての場面において、**静止状態で起立を3～4分以上続けることのないよう配慮**が必要です。
- 周囲から怠けやさぼりといった誤解や偏見が生じないよう、**本人と保護者の了解を得た上で学級の児童生徒等に遅刻・早退・欠席の理由等の説明を**しましょう。ただし、周囲に伝えることを不安に思う子もいますので、事前によく相談する必要があります。

「当たり前ことができにくい」ために、自信をなくしている児童生徒も多いと考えられます。最も大切なのは、**周囲が本人の状況を理解し温かく支援していく**ことであり、それが何よりの支えになります。起立性調節障害は特別な病気ではなく、思春期の子どもを中心に誰にでも起こりうるものです。**まずは学校や周囲の大人が理解を深める**ことから始めていきましょう。

キャリア教育の充実に向けて

【キャリア教育においても意識を！】
〈広島県の15歳の生徒に身に付けておいて
もらいたい力の育成に係る教材〉

キャリア・ログ～わたしの学びの足あと～

児童生徒の活動を記録し蓄積する新たな教材として、学習指導要領の趣旨を踏まえ、「キャリア・ログ～わたしの学びの足あと～」が作成されました。(取扱いについては、R4.5.11に通知)

〈特徴〉

- 年度当初と年度末に自分自身について考える項目を配置→「**自己を認識する力**」
- 学期ごとの振り返り項目を発達段階に応じて自分で選択→「**自分の人生を選択する力**」
- 自らの成長についてクラスメイトと語り合う活動を実施→「**表現する力**」

※部分的な活用を含め、学校の実態に応じて活用しましょう。そして、3つの力を、どのように育成していくのかを校内で検討し、実践していきましょう！



「学びの革新」の更なる推進

全ての学校が、「主体的な学び（学習者基点の能動的な深い学び）」を実現します！！

そのために、、、

情報収集・整理



どんなに短くとも個々で考える時間は大切！
情報収集し、自分の考えを整理する方法を充実させる！

対話



自分の考えを、根拠を持って話す時間は大切！
視覚的な資料を使って説明したり、いろいろな人に説明したりすることで充実させる！

1時間の授業の中にも積極的に「情報収集・整理」「対話」を取り入れていきましょう。

次号は、「発表」と「振り返り」です。

アテンション ぶい～ず !!

今回は、教員8年目をむかえ、今年度より廿日市中学校で勤務されている金谷先生に、お話を伺いました。金谷先生は、5月に熊本市で3日間開催された「スポーツ庁主催 体育が苦手な児童生徒のための授業づくり研究大会『令和4年体育・保健体育指導力向上研修（西部ブロック）』」を受講し、6月末には、その伝達講習として「令和4年度広島県教育委員会学校体育スポーツ研修事業『授業づくりのアイデア入門講座【中・高段階】』」で講師を務めることとなっています。何事にも積極的に前向きな、「情熱の塊」金谷先生に注目です！

Q1 指導力向上研修（ダンスコース）での学びを教えてください。

私自身のダンスの授業に対する概念が覆されました。私が体験した授業は、

- ①「火山」をテーマに音楽を流す。(流しっぱなし)
- ②各グループにファシリテーター役の生徒を1名配置し、ファシリテーターにのみ「火山」がテーマであることを伝える。
- ③ファシリテーターは新聞紙を持ち、音楽に合わせて、火山活動の「始め・中・終わり」を新聞紙で表現する。
- ④他の生徒は、ファシリテーターの新聞紙の動きを身体全体で表現する。

というものでした。

「新聞紙を模倣するという生徒の自己表現＝創作ダンス」になっていたことに驚きました。

ダンスの授業は『J-POPの曲が流れて、訳の分からないステップを教えられて、音楽に合わせて踊られる』そんな風に思っている生徒が多いのではないのかなと、『**やらされてる感**』があると**学びにはつながらない**。『**教わってないんだから、分からない**』『**間違えたくない**』という思考にさせてはならない。**身体を通して、他者へ自己表現し、表現方法の違いを認め合う**ことが大切だと感じました。

キーワードは『**与える**』から『**引き出す**』です。「できる」－「できない」、「勝った」－「負けた」、「正解」－「不正解」ではなく、**生徒全員が主体的に参加し、それぞれの個を大切にしながら、身体を動かす喜びや達成感を実感することのできる授業**を目指していきたいです。

Q2 廿日市中学校の強みと教師としてのモットーを教えてください。

「廿日市中学校は、子ども、教師、学校のエネルギーが凄い！できる、できないよりも素直にやろうとする集団です！」

「モットーは『情の注入』です！子どものために何ができるか、目指す子どもの姿に向けてこんな活動を仕組もう、一人一人の良さを引き出そう！そんな想いを注ぎ込んでいます！」



廿日市中学校
3年1組担任
金谷綾太 先生